

～輝きの子育て～

お天道様が見てござる

子供の頃、「嘘をつくな」「泥棒するな」「人の悪口は言うな」・・・などなど親や祖父母から言われ続けられました。そんな中に「お天道様が見てござる」というのがありました。「見てござる」というのは「見ていらっしゃる」という尊敬語です。

昨今、実業家、芸能界、政治、教育、などの世界では、謝罪、謝罪のオンパレードです。この謝罪は人の目を判断基準にして、バレてしまった結果の行為です。

人の目を気にして行動することは、誰でも出来ます。「みんな見てるぞ、やめとけ」「おい、誰も見てないからやっちゃおう」というのは、人の目を基準にしての行動です。

「人の目」でなく「天の目」を意識して行動しなさいというのが、「お天道様が見てござる」の言葉です。

お天道様に恥じない行動をせよというこの言葉は、太陽を敬い親しむ日本人の倫理感に合致するように思います。キリストの世界では「お天道様」でなく「神様」になります。

要は、「お天道様」でも「神様」でも自分自身の行動に対して誠実で正直であることを求めていることに変わりありません。

自分のやっていることが太陽や神様に見られていると思い、行動することが大切であるということです。

中国の哲学者－老子（紀元前591年生まれといわれている）の言葉に「天網恢恢疎にして漏らさず」という有名な言葉があります。悪事を行えば、天罰をのがれることはできない。

善は必ず栄え、悪は必ず滅びる。天の目は一見、粗いようだが決して悪を見逃すことはない。悪行には必ず天罰が下る、というものです。紀元前から言われていたのです。

人間として「一流の人」とは、についてある本に載っていました。

ホテルに一人で宿泊した時、部屋の中でどんな格好で過ごそうが誰も見ていない。だからといって好き放題に振舞うのは「心貧しい」姿です。天が見ていると思って「一人を慎む」ことが出来る人は一流である。とありました。なかなか出来ない事です。

「お天道様」「神様」が見ていると教えられたのに、成人した今ではどうして変わってしまふことが多いのでしょうか？「人のイヤがることをするな」と教えられた私もついイヤがることを楽しんでしまいます。この性分は直りません。

常に「気付いて直す」「反省する」ことを心がけることが大切だと思います。



片野 英司